

いのち

一年 河野辺ここ

私の夢は、空港税関となり麻薬探知犬ハンドラーになることです。そんな夢を持つようになったのはテレビの影響もありますが、家で家族として十九年目になるしば犬のイヴの影響もあります。イヴは私の良き友達です。私が学校から帰ってくると立ち上がり「お帰り、学校楽しかった？」と言うような表情をします。私が小学生のころには、ダンボールを使ってイヴの別荘を作ってあげると、おとなしく横になっていました。「いつもの家より床がやわらかくてねやすいよ。」と言っているようでした。

少し前までは、一緒に二十分くらい散歩したり、一緒に走ったりしました。おしっこも三から五回マージングできていました。うんちも二回くらいスルスルと健康的なうんちをしていました。食欲もあり一日二回のドッグフードを食べていました。お水も自分でたくさん飲むこともできました。しかし、最近のイヴは本当に精いっぱい生きています。散歩は、後ろ足が弱り血流が悪いのか足の色が悪くなり、あまり歩けなくなってきました。おしっこも足を上げずに筋力が落ちてきたような感じに出てしまいます。うんちは、水分が足りないような固くてポロポロしていて軽い感じのうんちです。食欲も一日二回だったのが一日一回になってしまいました。お水は、自分で飲めなくなり入れものを近づけ少し強引にやらないと飲めないようになってしまいました。視力もだんだんと落ちておいだけで歩いている感じで建物や物にぶつかってしまうこともあります。ごはんを食べていても体をさわると毛と皮と骨くらいしかない感じがです。そんな精いっぱい生きようとしているイヴがとても愛しく一日でも長く家族でいてほしいと思う私です。

そんなイヴに私がしている事は、声をたくさんかけたり、優しくなでてあげたりしています。そうするとまるで「こっちゃん、ありがとう。」と言っているような表情をします。そんなイヴの体が七月二十六日の午後からおかしくなりました。立てません。苦しそうな鳴き声をあげます。その日から動けなくなりました。それから十八日間、がんばりました。八月十二日の朝、天国のおじいちゃんが迎えにきました。

人の命も動物の命も同じ価値があります。口がきけない動物だからこそ人間側が、今どうしてほしいのかな、と心を読みとり大切に愛情を持って接することが大切だと思います。ペットとして飼っているならば最後まで責任を持って見届けることが大切だと思います。私はイヴを最後の最後まで優しい気持ちで見届けました。イヴから学んだことは、与えられた命を最後まで精いっぱい生きぬくということです。動物は私達人間よりも命を大切にしているなと強く感じました。